



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第54巻第
8号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第54巻第8号). 泌尿器科紀要 2008, 54(8): 580-580

ISSUE DATE:

2008-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/71713>

RIGHT:

3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。
4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円(税込)、超過頁は1頁につき7,350円(税込)、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)、6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 著作権：当誌に掲載する著作物の複写、複製、転載、翻訳、データベースへのとりこみ及び送信等の権利は、泌尿器科紀要刊行会に帰属するものとする。
9. 別刷：30部までは無料とし、それを超える部数については実費負担とする。著者校正時に部数を指定する。

編 集 後 記

今年4月から副病院長として教育・研究を担当している。病院内の教育管理部門「総合臨床教育・研修センター」のセンター長も兼任しているが、この4カ月間毎日のようにいろいろな課題が噴出したため、医療人の教育・研修における問題点を肌で感じている。

研修医はローテーション科の研修時期や期間について、様々な要望をセンターに出してくる。柔軟に対応してあげたいが、200名近くの研修医全ての希望を聞くことは無理である。また産婦人科などは1カ月間のみの研修であり、研修医は「何もさせてもらえない。」と苦情を出し、指導医は「熱意の無い短期研修の医師にやらせることは出来ない。」と反発する。さらに、大学病院として受け入れる研修医の適正数に関する議論でさえ各診療科によって温度差がある。泌尿器科は研修必修科ではないので、2年の研修医空白期を乗り越えて、研修医の労働力に依存しない運営体制を整えてきたが、まだ内科・外科の一部には研修医の労働力をあてにしているところが存在し、研修医の削減は容認出来ないようである。

このように目標とする理想と現場での実情との間に多くの矛盾を抱えた臨床研修制度であるが、ここにきて厚労省はさらに不可解な制度改革を推し進めようとしているようにみえる。特に、医師の偏在問題にからんで、地方の大学病院の初期研修機能の低下が著しいことを問題にしている。研修医を都会から地方にシフトすることで本当に医師の偏在が是正されるのだろうか。偏在が問題となっているのは研修医ではなく、ある程度の医療の実践ができる勤務医である。5年の研修が終わった後、都会では抱えきれなくなったマンパワーを地方が有効に吸収できる制度設計のほうが重要ではないかと思う。問題解決の努力をしているふりをして責任転嫁をしているだけのように思えてならない。

(小川 修)